

## 北海道における2006年のスズメ減少とその後

○黒沢令子・長谷川理・泉洋江(北海道大学)・竹中万紀子(北海道東海大学)

### 背景

2006年初頭(2005年12月末～2006年3月末)の積雪期に、北海道でスズメが大量に死亡し、発見された死体は最終的に1,500羽を越えた(本郷 2007)。その折には民家に来る個体数が減少したという印象がもたれた。スズメの死亡は北海道中央地域に多く、主に住宅地で見られた。発見された死体はほとんどスズメだった。当初は原因の確定にはいたらなかったが、その後一部の死体から感染症を起こすサルモネラ菌が検出され、原因として有力視されている(宇根ほか 2007)。

### 方法

スズメが減少したという印象は実地に検証する必要性があったため、大量死の前後で個体数の評価を試みた。2005年冬以前に行われた過去のルートセンサスによる調査データを掘り起こし、2006年以後に行なった同様の調査と比較した。また、スズメの地域における密度を広域・多地点において把握するために、2006年から定点調査を開始した。

### 結果

札幌市内において継続的に行われていたルートセンサスによると、2005年12月～2006年1月の間にスズメの個体数が急激に減少していたことがわかった(黒沢ほか 2006:図)。2006年の繁殖前期に行われたルートセンサスの結果でも、2004年以前と比べると、個体数が減った地域が多いという結果が得られている(藤巻・一北 2007)。

2006年以後の定点調査は北海道・東北地方と関東地方で行った。2006年の繁殖期を経た後には、北海道と雪のない関東地方ではいずれも1地点あたり、平均3～4羽が見られ、北海道の数は関東地方と差がみられなかった。また季節の違いについても、夏期と冬期で差が見られなかった。

しかし、冬期には北海道などの積雪地域では、餌やりが有る場所には、スズメが数多く集まっていることがわかり、冬期には人による給餌に依存していることが考えられた。

学会では、その後のデータを加えて、考察を試みる予定である。

